

巻頭言

日本放射線技術学会東北支部
支部長 坂本 博

本来、オリンピックイヤーであった2020年は、想像していた画を見ることも、興奮や感動に浸ることも許されない年となりました。この状況は言わずもがな新型コロナウイルスの感染拡大の影響です。本会会員の90%以上が診療放射線技師であることを考えると東北支部の会員の皆様も各々の立場で何かしらの影響を受けていることでしょう。医療機関に従事する会員の皆様は日々の献身的な診療に心より感謝を申し上げます。個人的にもコロナ禍は、昨年までの日常を大きく変えることになりました。本会に関連する事業に関する週末移動数が前年の1/10以下となり、代わりにPCの中のバーチャルな世界へ展開されました。元より標準規格等の国際会議に参加している経験よりオンライン会議、WEBツールの利用は10年程前から日常利用したので特に違和感を覚えることはありませんでしたが、さすがにその量は極端に増え、休憩時間も無く繰り返される会議環境は、効率というよりは、忙殺かも知れません。一方でマスコミ、メディアはNew Normalと称して新しい生活・仕事様式を提唱しながらもエンターテイメント、宴などコミュニケーションを伴う楽しみは大きく減り、医療機関では診療体制が逼迫するなど、世の中が、何か後ろ向きな思考と感じます。

本会もその影響は避けられず、JRC2020がWEB開催に変更され、東北支部の事業は5月の東北支部春季学術講演会「デュアルエネルギーCT 技術の基礎を徹底解説」(仙台)に始まり、6月に第 20 回東北支部セミナー「Wilhelm Camp- 5th Season」(秋田)、第 21 回東北支部セミナー「マンモグラフィセミナー」(山形)、第 4 回 Tohoku Advanced MR Forum(仙台)のセミナー事業、11月のTCRT2020:第 10 回東北放射線医療技術学術大会(福島)に至るまで、そのすべてに事業を中止とせざる負えない事態となりました。加えて本部主催の第 55 回放射線治療セミナー(仙台)、第 25 回 核医学技術研修会も中止となり、中間監査の時点で東北支部の会員の皆様には、何ひとつ還元できない状況でした。そこで年度後半12月から2月にかけて支部学術研究班が知恵を絞り限られた時間で企画を練り直し、第20回東北支部セミナー(マンモグラフィセミナー)、第21回東北支部セミナー(CT 研究班企画 Web セミナー「表計算ソフトで理解するスペクトラル曲線」)、第22回東北支部セミナー(Wilhelm camp on Web)および第4回東北Advanced MR Forum(webinar)の4回を無料のWebinar企画として開催することができました。いずれも定員を上回る参加をいただき、参加された会員の皆様および企画した乳房撮影、CT、Wilhelm、MRの班長、班員の皆様には深謝申し上げます！これらの事業を通し前向きなNewsとしては、Webinarに新しい事業の可能性が見えてきたことです。次年度に向けて更なる検討をしたいと考えています。1日も早く、新型コロナウイルスの感染拡大が終息することを願いつつ。